

近況便り

はじめに

今年は、世界各地で異常高温や集中豪雨が報告され、気候変動の影響がますます身近に感じられるようになりました。日本でも、春先から続く高温傾向により、季節の移ろいが例年とは異なる様相を見せています。

そんな中、未来への希望を象徴するイベントとして、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開幕しました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。世界中から集まる知恵と技術が、持続可能な社会の実現に向けて新たな可能性を提示しています。会場では、環境・医療・AI・食など多岐にわたる展示が行われ、来場者に未来へのヒントと感動を届けています。

また、今年、日本は戦後80年という節目を迎えました。歴史を振り返り、過去を知ることで、未来へのヒントが見つかるかもしれません。

さて、2025年度、当基金は5月の選考委員会において新規27名、継続27名の合計54名(内外国人留学生2名)の採用を決定しました。6月には、奨学金支給決定書交付会を開催し、全国各地から17名参加いただきました。また、9月には、工場見学会に14名の参加希望をいただきましたが、台風の影響により中止といたしました。

今回の近況報告は7月初旬から8月初旬にかけて定期試験の時期にもかかわらず、54名全員から提出いただきました。少しでも他の奨学生の近況を知り、相互理解の役に立てればと思います。忙しい勉強や研究の合間に、ご覧ください。また、昨年度で当基金の奨学生を終了した皆様からのメッセージを最後に載せていますので是非お読みください。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科
開放環境科学専攻修士1年

みなさんいかがお過ごしでしょうか。私は主に、研究活動とバレーボールに勤しんでおりますのでその報告をさせていただきます。

まず研究についてですが、私は、購買意欲の減衰や損失回避性といった消費者行動の特性を踏まえた、ポイント割引戦略のゲーム理論的分析に取り組みました。私の学問は「なぜこのような企業戦略が成り立つのか」「この行動の背後にはどんなロジックがあるのか」といった、意味や背景の深掘りにも注力するものです。このテーマを選んだ背景としましては、母親がポイント割引や期間限定の商品をよく買ってくるので、これらが意思決定にどのような影響を及ぼしているのか興味を持ったからです。自分の興味

あることを3年間研究できる環境に感謝しております。研究結果としては、還元率を導入した方が企業の利潤は高くなることがわかりました。また、その還元率は購買意欲減衰度に反比例する形で設定するのが最適だということがわかりました。そして、私は研究室を代表して日本経営工学会で発表する機会を得るとともに、卒業式では優秀学生として表彰されました。

次にバレーボールについてですが、昨年4月に初心者ながらクラブを立ち上げました。そして、10月に大学内で行われたバレーボール大会では、高校バレー部のBチームや他のバレーボールサークルの人たちに勝ち、見事優勝することができました。研究とバレーボールの両立は大変でしたがどちらも努力が報われて嬉しく感じます。



信州大学大学院
総合理工学研究科
繊維学専攻修士 1 年

この度は、貴財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。貴財団の奨学生として相応しい学生となるよう、日々精進して参ります。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。長野県は、標高が高いため、冬は寒く、夏は非常に暑いです。私は熊本県出身で、長野県は涼しいと思い込んでいたものの、全く違っていました。私は暑がりですので、この時期は非常に生活しづらく感じております。

話は変わりますが、修士 1 年生となると、自身の研究に加え、授業や就職活動など、両立する能力が必須であると、つくづく感じております。加えて、私事ですが、企業との共同研究の結果が出たため、国際論文の執筆にかかっております。これらの結果、朝から深夜まで研究室に通う日々が続いております。しかし、やるべきことが多いことは、骨が折れる一方で、充実感や達成感を、より感じることができると感じます。また、研究室の仲間とのリフレッシュにも力を入れており、共食を通して小まめな情報共有を行っております。私の研究室は、仲間と共に成長できる場が大いにあるため、非常に充実した生活を送ることができております。今後は、就職活動が本格的になり、論文執筆は徐々に仕上げ段階に突入しますが、日々努力を怠らず、尽力して参ります。

末筆ながら、貴財団のご支援より、このような充実した生活を送ることができております。深く感謝申し上げます。今後とも、貴財団の奨学生として、また、修士課程の学生として自覚を持って行動したく存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。



横浜国立大学大学院
理工学府機械・材料・海洋系工学専攻
機械工学教育分野博士課程後期 3 年

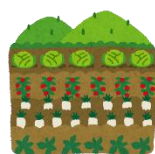
昨年度に引き続き、今年度も奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。本稿では、研究活動に関する近況をご報告させていただきます。

私はセラミックス材料を対象に、材料組織特性(気孔や

介在物のサイズ、形状分布)と強度特性(破壊強度のばらつき)を関連付けることのできる数値シミュレーション手法の開発に取り組んでいます。これまでは、室温におけるセラミック部材の強度予測に注力し、様々な試験条件下の強度を良く予測することができました。現在は本手法を高温環境に拡張し、より実用的な条件における強度予測に取り組んでいます。

セラミックスは耐熱性や耐酸化性に優れることから、航空機用エンジン部材などの耐熱構造部材としての利用が期待されています。しかしながら、セラミックスの強度は温度依存性を示す(高温になるほど強度が低下する)ため、それらを正確に予測することが部材としての信頼性を担保するために重要です。本研究では、実験から数値解析に至るまで、ほぼ全てを自身で行っており、大変さもありますが、やりがいを感じています。

学生生活も残り約半年となりますが、悔いの残らぬよう、最後まで全力で取り組みたいと考えています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



信州大学
工学部水環境・土木工学科 4 年

学年が一つ上がり、気づけば大学の最終学年として研究に追われる日々を過ごしている。これまでは次々と迫り来る授業、アルバイト、課外活動をこなすための短期・マルチタスク型の集中力が試されていたが、打って変わって研究では、自分自身で問いを立てて論理的な研究手法を模索し、質の高いアウトプットを目指す長期・シングルタスク型の集中力が要求され、大規模な構造転換に体がなかなか追いつかないでいる。

都市計画系の研究室に所属し、個人的に関心があった緑地の創出と管理をテーマとして、東京にある web3 技術を活用した画期的な緑地管理を実証している「Comoris」を事例研究している。気候変動対策や、生物多様性保全、水害被害の低減、レクリエーション機能など多面的な価値を有する緑地であるが、創出や管理に手間がかかり、経済的なメリットもないため、管理者の人的資本不足や維持管理のための資金不足が課題として指摘されている。そこで、緑地に関わる人々の間口を広げるために NFT な

どの web3 技術を活用して、経済的な持続性と人材の確保を達成しようとする前衛的な取り組みをしているのが Comoris だ。東京にある空き地を、メンバー同士が共同で民主的に運営を行って、シェアフォレストに転換していく活動を行っており、毎週、土中環境改善のワークショップや畑作りなど多種多様なアクティビティが展開されている。また、Comoris の web3 技術は依然として導入段階であるため、インターンとして web3 の技術的アドバイスも担当しており、リアルとデジタルのインフラを接続する技術者となるべく、手探りではありながらも尽力している。また、研究に並行して、大学院進学に向けた学習も進めており、気が休まらない日々が続きそうだが、健康管理を継続的にを行い、有意義な日常を持続していきたい。



東京大学大学院
工学系研究科
航空宇宙工学専攻修士 1 年

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。今年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。現在の私の近況についてご報告させていただきます。研究活動としては、CFRTP(熱可塑性炭素繊維強化プラスチック)の 3D プリンティングに関する研究に取り組んでおります。CFRTP は軽量かつ高強度でリサイクル性にも優れており、次世代の製造技術として注目されています。しかし、CFRP の 3D プリントには欠陥が多く、実用化とはほど遠い状況です。特に熱変形による反りが問題になり、CFRP の 3D プリント製品の熱変形の正確なメカニズムはわかりません。私の研究では、CFRP の 3D プリント製品の熱変形の「低減」「予測」「利用」を目標に研究を行っています。まず「低減」では、3D プリントに用いられる樹脂の結晶化現象に着目し、プリント中の現象理解から熱変形の低減を目指し、実験を重ねています。次に「予測」では、熱変形を数値解析で予測、3D シミュレーションで可視化を目指します。最後に、熱変形の正確な予測により、熱変形を「利用」します。これは時間の次元までコントロールした 4D プリントとも呼ばれ、最終的には CFRP の 4D プリントを目指します。

学業の傍ら、週に数回、ブラジリアン柔術のインストラクターとしてアルバイトも行っております。柔術は自分の体と

向き合う武道であり、心身ともに鍛えられる貴重な経験となっています。ただ、現在の課題として若年層の競技人口が減少傾向にあることを感じており、今後はより多くの若い方々にこの競技の魅力を伝える活動にも取り組んでいきたいと考えています。興味のある方はぜひ「ブラジリアン柔術」で調べてみてください。

引き続き学業・研究・課外活動に励み、支援いただいていることへの感謝を忘れず精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東京大学大学院
理学系研究科天文学専攻博士 3 年

本年度も引き続き奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は現在も引き続き、吾妻鏡にも記録が残る 1181 年の歴史的な超新星爆発の研究に取り組んでおります。この研究が注目され、昨年度は NHK や CNN といった国内外の主要メディアから取材を受ける機会に恵まれました。理論と観測の両面からアプローチした私の研究は高く評価され、多額の研究費を国内外から獲得することができております。

現在は、これらの研究費を活用しながら、アメリカ・オーストラリア・フランスなど世界各地の共同研究者との共同研究を進めております。現地での議論を通じて英語でのコミュニケーション能力も鍛えられ、研究の視野が大きく広がっていることを実感しています。

このように、研究・生活ともに余裕を持って博士課程を歩めているのは、ひとえに修士 1 年から古河記念基金にサポートしていただいているおかげです。本奨学金の支援によって心に余裕を持ちつつ、研究や就職活動に集中することができました。改めて深く感謝申し上げます。博士課程も残すところあと半年となりましたが、引き続きラストスパートに向けて精進してまいります。



岐阜大学大学院
自然科学技術研究科
生命科学・化学専攻修士1年

はじめに、奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。私は現在、創薬研究に携わりたいという目標を胸に、日々の授業と並行して、自分のテーマを持ち、研究に勤しんでおります。奨学金を頂けることになってからは暮らしに余裕ができ、種々の学びに時間を割くことができ、自分の関心の向くままに研究生活を送ることができていると感じております。また、大学入学当初より、地元のホームセンターでアルバイトとして働いており、年々できることが増え、時には地域の方々と会話をしたり、その要望への対応に満足していただけたりするようになり、やりがいを感じております。加えて、大学にて研究の合間に、下級生の学生実験や授業の補佐員として働いており、常々“伝えること”の難しさを実感しておりますが、経験を積むにつれて伝えたいことを的確に言葉で表現できる力が身についてきたと思っております。本年度より、研究室にて後輩ができ、教えられる立場から教える立場へと変化したことでどのようにコミュニケーションをとっていくか四苦八苦していた時期もありましたが、先の伝える力を基に、最近ではお互いが進んで話をすることが多くなり、以前よりも和やかな雰囲気の中で接することができていると思います。このように、研究や関連する人間関係、そして私生活においても、全体的に心にゆとりを持って充足した日々を送ることができていると感じております。今後も頂く奨学金を支えに一層、学業や研究に邁進して参ります。この度は本当にありがとうございます。



東京科学大学
工学院博士1年

ここ数年、SNSで間違えた日本語をよく見ます。例えば、形容動詞の連用形に付く「に」を付けない（「久々に」を「久々」と使うなど）ことや、動詞の目的語に助詞「が」を付ける（「大谷翔平を知らない人もいる」を「大谷翔平が知らない人もいる」と言うなど）ことをよく見ます。僕は勝手に後者の例を「大谷翔平が（私は）知らない（という性質の）人もいる」と読んでいます。

最近は図書館といえばパソコンで作業をする場所になっていました。しかし先週末にふと思いつき、手ぶらで図書館に行きました。本を物色しているうちに、段々と地理・言語などの書架にいたことが多くなり、自然に自分の知りたいことや興味の対象が分かってく体験をしました。これは、情報が雑多に降り注ぐインターネットではあり得ないことです。今後はSNSもインターネットも少し距離を置こうと思いました。

インターネットと距離を置くためにはスマホを捨てるが一番ですが、それは難しいです。特に最近はあらゆるサービスがスマホの所有を前提とした形式に変わっており、その手は公共性の高いサービスにまで及びます。ここ数年で、JRに乗っても到着時刻や接続列車の案内を聞く機会は減っていますし、車内販売もスマホからということが増えています。結局はスマホを使いつつ、家にいるときは電源を切っておくのがいいと思いました。

余談ですが、スマホを前提としたインフラ整備はやめてほしいです。災害時の不安定さなど、合理的な理由はいくらでもあります。しかし僕は心理的な理由を強調したいです。つまらないということです。飲食店で年季の入ったメニューを開くこと、映画の半券を係の人に切ってもらふこと、切符を駅で買うことが、少なくとも僕にとっては、生きているなあと感じる瞬間です。



早稲田大学
先進理工学部3年

いつも温かいご支援誠に有難うございます。今年度も奨学生に採用頂き心より御礼申し上げます。

近況について、学業、アルバイト、その他活動についてご報告させていただきます。早稲田大学先進理工学部三年生となり、昨年以上に多忙を極めています。片道2時間を優に超える通学時間、課題、アルバイト、家庭事情等、肉体的精神的に辛い時もありますが、諦めたら終わりと思い貴財団の支えを胸に日々過ごしています。

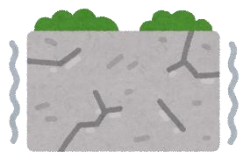
三年生になり昨年同様化学を包括的に（有機化学、無機化学、物理化学、生命化学）学び理解を深めています。今年からより専門的且つ高度な知識と実験技術習得へとシフトしてきています。中でも私が好きなのは週三日履修する実験科目で自分たちで実際に合成した化合物

の分析や解析を行う工程が特に興味深いです。また演習授業においては論理的思考力を磨いています。いよいよ来年から研究室配属になります。その前段階の実践的スキルと科学的思考力の習得段階にいます。自分の夢に向けどのようなアプローチが興味深いのか、研究室配属という迫りくる決断に向け日々思いを巡らせています。希望の研究室に配属される様引き続き努力して参りたいと思います。

アルバイトでは塾講師を変わらず続けております。三年目となり、保護者や生徒が私を指名し入塾する事も多くなってきました。大変有難く思います。何年経っても教えるという事は自分が習得する以上の苦勞を感じますが、生徒が無事に第一志望に合格した時の喜びは今の私にとって何事にも代えがたい喜びとなっています。

また不定期ではありますがフットサルサークルに参加しており、学年、学部、大学の垣根を超えた交流を楽しんでいます。

どうぞ今年度も温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



長岡技術科学大学大学院
工学研究科
環境社会基盤工学分野修士1年

今年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。経済的なご支援を賜り、学業・研究に専念できる環境が整っていることに、心より感謝申し上げます。

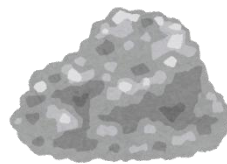
本年度より大学院に進学し、研究活動が本格化してまいりました。学部時代と比べ、より専門的かつ高度な知識と技術が求められる場面が増え、日々の課題や研究に取り組む中で多忙を極めておりますが、残り少ない学生生活をより充実させるべく励んでおります。

現在は、2024年元日に発生した能登半島地震に関連する研究を進めています。特に、地震によって顕著に発生した地盤の液状化や地盤流動といった現象に注目し、ある被災地域の地盤構造をモデル化して動的解析を行い、これらの現象が発生したメカニズムの解明を目指しております。現地調査の報告や既往研究と照らし合わせながら、解析精度の向上に努めており、将来的には防災・

減災への貢献につながる成果を挙げたいと考えております。

なお、昨年ご報告申し上げました右膝前十字靱帯の断裂につきましては、手術が無事に成功し、その後のリハビリテーションも順調に進んでおります。現在は日常生活に大きな支障はなく、学業や研究に全力で取り組むことができておりますことをご報告申し上げます。

今後も奨学生にふさわしい振る舞い・心構えを意識するとともに、いただいたご支援に報いるべく努力を重ねてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



九州大学大学院
総合理工学府
総合理工学専攻修士2年

私は現在、CO₂の有効利用に関する研究に取り組んでいます。具体的には、バイオマス由来のオイルとCO₂を反応させ、ギ酸を合成する新たなプロセスの確立を目指しています。CO₂の資源化はカーボンニュートラル社会の実現に直結する課題であり、持続可能なものづくりを支える基盤技術として注目されています。反応過程では、ギ酸に加えて乳酸や酢酸などの副生成物が生成されることをHPLCにより確認し、反応機構の解明と選択性向上に向けた条件検討を進めています。これまでの成果は、「鉄と鋼」誌に論文として投稿・採択され、2025年に掲載されました。鉄鋼業界を中心とする実用技術分野に向けて、自らの研究成果を発信できたことは大変貴重な経験であり、産業界との接点を意識した研究の意義を再認識しました。研究活動の傍ら、家庭教師のアルバイトも継続しており、生徒ごとに理解度や性格を踏まえて指導を工夫する中で、対話力や柔軟な思考力が養われています。研究、アルバイト、学会発表などを両立する生活は容易ではありませんが、限られた時間の中で優先順位を見極め、計画的に行動する力が身についたと感じています。こうした学び多き大学院生活を送ることができているのも、古河記念基金様からのご支援があってこそだと日々実感しております。経済的なご支援に加え、今回のような交流の機会を通じて他大学の学生とのつながりを得られることも、大きな励みとなっています。改めまして、心より感謝申し上げます。

げます。今後も「社会に貢献する技術者」を目指し、技術力と人間力を高められるよう精進してまいります。



東京理科大学
薬学部薬学科2年

このたびは奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。近況報告として、今学年前期の大学生活について報告させていただきます。

今年度から私の通っている薬学部のキャンパスが野田から葛飾へと移転しました。憧れていた都内への通学に歓喜したのも束の間、待ち受けていたのは目が回るほどの多忙な日々でした。

まず、私は去年は大学の敷地内にある食事付きの寮に住んでいましたが、移転に伴いキャンパスから1時間程離れた場所で一人暮らしを始め、生活環境ががらりと変わりました。家事は自分でこなし、食費を浮かせる為にほぼ毎食自炊をしました。通学時間を活用する為に、歩きながら授業の録音を聞いて復習をしたり、電車の中では読書をしていました。寮に住んでいた頃はゆっくりと支度をして教室に向かっていましたが、通学時間として確実に確保しなければならない時間に学習を取り入れられたため、時間を有意義に使えたように感じます。

また、4・5月の2か月間は実験が週に2日あり、手書きのレポートを毎週3~4つ課せられていました。あまり要領の良くない私は毎週のように徹夜をする日々を送っていました。常に追い込まれている状況で苦しかったですが、友人と励まし合い、乗り切る事ができました。多くの学びがあったのは勿論、精神的にも肉体的にも鍛えられたように感じます。

部活動にも積極的に取り組みました。昨年からの継続の音楽系の活動に加え、今年から新たに合成生物学系の研究をする団体に所属しました。新しく加入した団体では自身の無知を痛感し、レベルの高い環境に刺激を受け、より学びに対する意欲が高まったように感じます。掛け持ちで活動をしている為、週3回の活動が続く事もありましたが、自身の力を磨きつつ学部を超えた交流を楽しむことができました。

休日にはイベントスタッフや販売スタッフ、試験監督などのアルバイトを通して社会経験を積んだり、研究施設の

公開イベントに参加して知見を得たりしました。また、法学部の友人と裁判の傍聴をしたり生物系の学科の友人と生物の展示会に行ったりと、他学部の友人から学びを得るような体験もできました。加えて貴財団ゆかりの地でもある旧古河庭園を訪問し、日本の発展に貢献した偉人たちの生涯に感銘を受ける経験もできました。

近況報告として活動を振り返り、充実した濃い日々を過ごせた事を実感し、とても嬉しく思います。奨学金を支給して頂けることとなり、金銭面の負担が減り、自身の活動への意欲を尊重する事ができました。心から感謝申し上げます。

奨学生として、周囲の学生に良い刺激を与えられるような学生生活を送れるよう、精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



日本大学
生産工学部3年

大学生活では、勉強・アルバイト・サークル活動を両立し、非常に充実した日々を送っています。3年生の前期では、今までの知識をフルに活用する実験の授業がありました。アルバイトやサークルと両立しながら実験内容の理解や実験レポートの作成を行うのは大変でしたが、自分なりの考察を展開することで、論理的に説明する力に繋がりました。また、他の学生と疑問点をお互いに質問・説明し合うことでより理解を深めることができました。友達だけでなく、協力できる「勉強仲間」を作れたことはとてもよい経験であったと思います。さらに、忙しいスケジュールのなかで物事に優先順位をつけて、効率的に作業する力にもつながりました。アルバイトでは、接客・販売業務を行い、幅広い年代のお客様に対して、ニーズに合った商品をご案内しています。前よりもうまく商品の良さを伝え、お客様から満足のお声を頂けたときは非常に嬉しい気持ちです。1日に多くの人とお話をするため、学生生活のリフレッシュとコミュニケーションの向上に繋がり、楽しくアルバイトに取り組むことができています。また、サークル活動では軽音サークルに参加し、キーボードパートとして音楽活動に取り組んでいます。他学科・他学年の学生と自由にバンドを組むことができるため、私にとって貴重な交流の場です。



東北大学
工学部機械知能・航空工学科
ファインメカニクスコース 4 年

昨年度に引き続き、本年度も奨学生として採用していただき、ありがとうございます。

近況報告を書いているのは 7 月上旬ですが、卒業に必要な単位は卒業研究を除いて取り終え、研究活動に励んでおります。私の所属する研究室では、燃料電池や二次電池、半導体を対象に、ナノスケールの現象を数値計算を用いて解析する研究が行われています。その中でも、私の研究対象である全固体リチウムイオン電池は、持続可能な社会の実現に向けて大きな注目を浴びており、さらなる大容量化・充電の高速化が求められています。全固体リチウムイオン電池では、リチウムイオンが固体電解質を介して、正極と負極の活物質と呼ばれる物質を移動することで充電・放電が行われます。しかし、固体電解質が活物質に浸透できずに生じる空隙の影響により、リチウムイオンの輸送距離が長くなり、かえって容量の低下や充電時間の増加が引き起こされる、といった懸念もあります。そのため、いかに効率よく活物質中でリチウムイオンを輸送できるかがカギであり、現在は正極の活物質中におけるリチウムイオンの輸送特性の解明および輸送効率の向上を目標としています。現在注目されている正極活物質として、NMC と呼ばれる混合金属酸化物が挙げられますが、まずはこの材料を対象に研究を進め、今後は数値計算を行う際に必要となる原子間ポテンシャルについて、ニューラルネットワークを用いてより高精度なポテンシャルを開発したいと考えています。このようなポテンシャルはニューラルネットワークポテンシャルと呼ばれ、これを構築することができれば、数値計算にとって大きな課題である計算コストの削減も大いに期待できます。

最後になりますが、本年度も奨学生としての自覚をもって研究活動に取り組んでまいります。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



金沢工業大学
工学部機械工学科 4 年

昨年度に引き続き奨学金のご支援をして頂き、誠にありがとうございます。近況報告として、私からは研究活動と最近の趣味について報告いたします。

今年度より始まった研究活動ですが、私は工場から排出される低温排熱が捨てられている現状を知り、これを回収する技術の確立を目指しています。その第一段階として、互いに難溶な液体同士を用いた熱交換を行い、蒸発の制御を行っていくのですが、やりたい条件の組み合わせがとにかく多く、時間がいくらあっても足りない現状です。また、5 月の終わり頃に中間発表を行ったのですが、研究内容の新規性については評価されたものの、実現可能性について指摘を受け、返答に窮してしまいました。自身の未熟さを痛感するとともに、発表内容をより良いものになりたいという気持ちが一層強まりました。

趣味については、春頃に電子キーボードを購入し、休日に練習しています。始めたての頃は左手と右手がつい同じ動きをしてしまうことが多かったのですが、数か月の練習を経て何とか形になってきました。今は簡単な曲ばかりですが、ゆくゆくは私の好きな J-POP を弾けるようになります。

以上、簡単ではございますが、私の近況報告とさせていただきます。



信州大学
工学部
電子情報システム工学科 4 年

奨学生採用誠にありがとうございます。念願の人工知能関係の研究室に配属することができ、研究に励んでいます。研究などについて取り組んでいることなどを書きたいと思います。

私の研究テーマは大規模言語モデルを用いて、授業計画や目標と授業資料や演習問題とを比較し、授業が計画通りに行われているかを判定するシステムを開発しています。実用的にするためには、モデルの回答と人間が回答する場合の差を埋める必要があり、現在は人の回答例と

の比較を行い、どの文脈で違いがあるのかを分析しているところです。今後は、人間の回答例との差を埋めていくための具体的なプロンプトを考案していきたいと考えています。

このシステムを実用に落とし込むことができれば、教育での資料作りでの改善や運営側の負担軽減につながると考えています。また、ソフトウェア開発では要求仕様と呼ばれる仕様書からプログラムに落とし込んでいく過程があり、要求仕様に書かれていた内容がプログラムで欠損すると欠損箇所を見つけ、修復する必要がありますが、このような問題を題材にして現在の研究を発展することも可能です。

研究の過程で実験の意味や過程の厳密性について、指摘をもらうことも多く、研究をすることの大変さと先行研究がない研究を行う事の難しさを感じ、壁に直面しています。研究者ならば誰でも通る道だと思っているので、もっとテーマや目標、実験の設定を厳密にしていきたいと考えています。

また、日常生活では大学4年目になり、生活がマンネリ化しているので、新しい事に挑戦したいですし、大学で扱わない分野の勉強もしたいと感じています。特に、農業関係へのAI応用などに興味があるので、そういった関係の知識を取り入れたいと感じています。また、研究室に配属されてから生活リズムが不安定であり、研究を頑張っていく上でも生活にも気を配っていきたくと思っています。

よろしくお願いいたします。



早稲田大学大学院
基幹理工学研究科
材料科学専攻修士2年

この度、貴財団の奨学生としてご採用いただき誠にありがとうございます。また、先日は奨学生交付会に参加させていただき、他大学で様々な研究を行なわれている方々と交流し、大変勉強になりました。

まず研究について、私は半導体材料の作製と電気特性を研究しています。4月から7月にかけては、実験室に通いました。最近新しい試料作製方法を試すために、真空封管装置を組み立てました。この装置は後輩たちも利用でき、今後の研究に役立つことが期待されています。また、

学会での発表に向けて準備をしています。修士論文の準備も少しずつ進めていました。

次に生活について、都内のバーでアルバイトを続けています。今年、そのバーが「TheAsia's50BestBars2025」に選出され、49位という評価をいただきました。世界中から注目される中で働けることは貴重な経験であり、お酒の知識だけでなく、チームで働く意識や国際的な感覚も養われています。さらに多様なバックグラウンドを持つお客様との対話を通じて、言語力や異文化理解、そして社会人としての姿勢も磨かれていると実感しています。

研究生活は忙しく大変ですが、毎日が充実しており、新しい発見や学びが多いです。これからも研究に励み、少しずつでも成果を上げていけるよう、努力を続けていきたいと思っています。



徳島大学大学院
研究科専攻薬学研究科
創薬科学専攻博士後期課程1年

この度は、貴財団の奨学生としてご採用頂き誠に有難うございます。物価の上昇が続く中、貴財団からのご支援をいただけることは誠に心強く、安心して研究に打ち込めることに、感謝申し上げます。

現在私は、凝集性タンパク質の化学合成法の開発に取り組んでいます。これらのタンパク質は、アルツハイマー病をはじめとする様々な疾患に関与することが知られていますが、既存の手法では十分な量を安定的に供給することが極めて困難です。私はこの課題を克服すべく、新たな合成法の開発を進めています。

現在は、開発した手法を実際のタンパク質合成に応用する段階にあり、論文化に向けた検証実験を進めています。原料の合成から、タンパク質の合成、精製までを一人で行うことは容易ではありませんが、着実に前進している実感があり、日々達成感を感じています。今後も本タンパク質の合成をさらに進め、手法の有用性を示した上で論文投稿を行いたいと考えています。

私は、本年度から博士課程の学生となりました。研究室では、日々の研究の傍ら、後輩学生の指導にあたっています。後輩学生には、私が修士課程で確立した研究内容を応用したテーマに取り組んでもらっています。その過

程では課題も多くありますが、後輩学生と共に考え、課題の解決に取り組むことが、互いの成長につながる貴重な機会となっています。さらに、優秀な先輩方にも恵まれ、お互いの研究テーマに関する活発なディスカッションや新たなアイデアの創出を通じて、日々刺激を受けています。今後は、先輩・後輩学生と協力しながら、現在の研究を深化させるとともに、新たな研究テーマの芽を育てていきたいと考えています。

この度いただいたご支援を励みに、今後も研究に一層集中して取り組み、得られた成果を社会に還元できるよう精進してまいります。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。



東京科学大学
物質理工学院
材料系金属専攻学部4年

このたびは奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。

本年度から研究室に配属され、いよいよ本格的な研究生活が始まりました。私は現在、加速度センサーなどに用いられる MEMS (MicroElectroMechanicalSystems) デバイスに関連して、マイクロメートルサイズの材料の機械的特性評価に取り組んでおります。一から基板を作成し、装置でマイクロメートルサイズに加工した試料の特性を評価するなど、課題は多岐にわたりますが、その分やりがいも大きく、「これが研究なのだ」と実感する日々です。最近、大学院入試も無事に終え、手応えも十分でほっとしているところです。今後は、学会にも積極的に参加し、研究を深めて論文執筆を目標に、引き続き励んでまいります。

また、私の所属する研究室には多くの留学生が在籍しており、英語に触れる機会が多く、とても良い刺激になっています。ゼミでは英語での発表もあり、まだ全てを聞き取り完全に理解するのは難しいのですが、今後も勉強を続け、英語力の向上に努めてまいります。

一方、課外活動では、サークルを引退して運動の機会が減ったため、最近は大学のジムに通い始めました。筋力トレーニングは良い気分転換になり、研究への集中力も高まるので、一石二鳥だと感じています。実際に取り組んでみて、筋肉を鍛えることの大変さを実感し、街中で見

かけるマッチョな方々への見方が変わり、長年努力を重ねる姿に尊敬の念を抱くようになりました。

さらに、最近先輩方から就職活動について話を伺う機会も増え、私自身も少しずつ意識するようになってきました。学部3年次にはインターンシップに参加することができましたが、来年もぜひインターンに参加し、企業ではどのように仕事が進められているのかを実際に学び、将来に生かしていきたいと考えております。

以上、簡単ではございますが近況をご報告させていただきます。貴財団のご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後もより一層充実した大学生活を送れるよう、精進してまいります。



早稲田大学大学院
基幹理工学研究科
数学応用数理専攻博士2年

貴財団より奨学生として温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。日頃の感謝を込めまして、近況をご報告させていただきます。

私は現在、松嶋研究室に所属し、統計学・データサイエンス、特に「統計的因果推論」の基礎理論について研究しております。この分野は、物事の「原因と結果」の関係をデータから理論的に解き明かすための学問です。

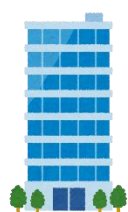
研究を進めるにあたり、私が最も大切にしているポリシーは「実社会の課題を数理的な問題として正確に定式化し、解決に至るまでの道筋を明快にすること」です。これにより、単一の解法に固執することなく、応用研究の幅を大きく広げることができると考えております。このポリシーを強く意識するようになったのは、現在の研究テーマでの経験がきっかけです。私の研究分野には、多くの研究の土台となっている理論的枠組みが存在します。しかし、改めてその前提に立ち返り、因果推論の問題について捉え直した結果、その枠組みが唯一ではない可能性に気づきました。

こうした研究における経験から、学問の世界であったとしても、常識とされていることが、本当に正しいのかどうかと批判的に問い直す姿勢が重要であることを学びました。現実社会においてはなおさら重要となります。もちろん、こうした本質的な問いを立てるためには、基礎理論に通じ

ていることが不可欠です。そのため、基礎的な研鑽も、日々欠かさず続けております。

貴財団からのご支援により、このように腰を据えて研究に打ち込めておりますこと、重ねて御礼申し上げます。私の研究成果が社会の発展につながりますよう、一層研究に邁進していく所存です。

末筆ではございますが、財団の皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



東京都市大学大学院
総合理工学研究科
建築都市デザイン専攻修士1年

平素より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
大学院進学後、設計課題において「池尻大橋」という東京らしさを感じる街を敷地に、ファサードから集合住宅を構想するというテーマに取り組み、最優秀賞を頂くことができました。

本課題では、構造体を建物の外側に露出させるのではなく内部に納めることで、ファサードをできるだけフラットでクリアな状態に保つことを目指しました。ただし、それだけでは内部の生活が全て可視化されてしまい、画一的なタワーマンションと変わらなくなってしまいます。そこで私は、冷蔵庫の裏や浴室、キッチンなど、生活の実態に即した場所に対応する壁面を外部に張り出し、それらが開閉する仕組みを提案しました。

この「開く壁」は、居住者の生活スタイルや時間帯によってファサードの表情が絶えず変化します。窓と壁の関係が反転するような構成を通して、匿名性と個性が共存する東京の街並みにふさわしい、新たな集合住宅のあり方を模索しました。今後も建築を通じて、都市と人の関係を丁寧に見つめていきたいと考えております。



横浜国立大学大学院
理工学府数物・電子情報系
理工学専攻修士2年

この度は、貴財団の奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、学業と研究に専念できる環境に身を置き、日々充実した学生生活を送

っております。

私は、高齢化社会において重要性が増している「認知機能の低下の早期発見」を目指し、AI 技術を活用した研究に取り組んでいます。複数の医療機関から提供された実データをもとに、AI が自動的に最適な構造を学習・改良していく仕組みを備えており、これにより医師の診断をより正確かつ効率的に支援することを目指しています。

この研究では、データのばらつきや情報の少なさといった現実的な制約に向き合う中で、仮説を立て、試行錯誤を重ね、実装と検証を繰り返す力が鍛えられました。

将来的には、こうした経験を活かして、人の健康や安心につながる技術を社会に届けられる技術者として成長していきたいと考えています。

現在は、9 月下旬に予定されている学会発表に向けて、研究内容のブラッシュアップに努めております。発表を一つの節目とし、さらなる研究の発展につなげていきたいと考えております。

学生生活も残りわずかとなってまいりましたが、最後まで学びと挑戦の姿勢を大切に、今後の進路に向けて実りある時間を過ごしてまいります。引き続き、温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



藤田医科大学
医療科学部医療検査学科4年

私は現在、大学4年生のため授業が終了し、毎日卒業研究を行っています。感染制御学の研究室に所属し、ウイルスの抗体価を測定しています。抗原と抗体の量を測る ELISA 法という検査方法を用いて、水痘帯状疱疹ウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルスの抗体価を測定しています。大学病院の1歳から3歳の検体を用いて実施しています。また、先行研究により、4歳、5歳の抗体価も測定しており、1歳から5歳までのワクチン接種の時期や抗体価がどれだけあるかを考察しています。

同時に、国家試験対策の勉強と就職活動も行っています。月に1回、国家試験の模試があるため、友人と相談しながら勉強をしています。今後の勉強方法を模索中で、本格的に対策を進めようと考えています。就職活動については、地元の病院を志望し、6～7月にかけて採用試験を受けました。教養試験や専門試験、小論文など受験科

目が複数で大変でしたが、万全に準備を行い挑みました。面接については、学校のキャリアコンサルタントの方と振り返り練習を行いました。その結果、無事に内定をいただくことができ、春から臨床検査技師として働けることになりました。国家試験の勉強や就職活動中は、友人や研究室の先生にたくさん相談に乗ってもらい、アドバイスをもらいました。支えてくれた人に感謝してこれからも頑張ろうと思いました。

また、プライベートも充実しています。7 月には、大学の友人と旅行に行きました。夏らしく海に入ったり食べ歩きをしたり、観光地にも訪れて楽しい思い出に作ることが出来ました。

今後の大学生活も、国家試験合格のために気を抜かず勉強に励みます。時には息抜きして友人と遊びに出かけ、楽しい 4 年間で過ごしたいと思います。



東京大学大学院
情報理工学系研究科
知能機械情報学専攻博士1年

私の研究分野は、等身大人型ロボットの機械設計および制御技術の開発です。ハードウェア面では、大出力を可能にする水冷モータの開発に取り組んでおり、ソフトウェア面では、ジャンプ・宙返り・全力疾走といったダイナミックな動作を実現する制御手法の研究を進めています。

このうち、修士研究として取り組んだ「全身軌道最適化に基づく全身跳躍動作の軌道生成」では、学習ベースの手法とは異なり、人間の動作データに依存せず、同一の手法・パラメータでジャンプ、後方宙返り、前方宙返り、さらにはヨーツイスト(フィギュアスケートに見られるような回転ジャンプ動作)など、多様な跳躍動作を生成できる点が大きな特徴です。

この成果は、ロボティクス分野において世界的に権威のある国際会議の一つである *IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS)* 2025 に採択され、今年 10 月中旬に中国・杭州にて発表する予定です。

また最近では、強化学習を活用した全力疾走動作の獲得にも取り組んでおり、実機ロボットによるさらなる高性能化に向けて研究を進めています。こうした日々の研究

は、気づけば日付が変わるほど夢中になって取り組める、忙しくも充実した毎日であり、このような環境で挑戦を続けられるのは、ひとえに古河グループの皆様からの温かいご支援のおかげと深く感謝しております。

現在、等身大人型ロボットの開発において世界をリードしているのは、米国や中国の企業であることは否めません。しかし、私自身も彼らに肩を並べ、いずれは追い越すことを目標に、これからも初心を忘れず真摯に研究に取り組んでまいります。今後ともご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



大阪大学
基礎工学部 2 年

この度は古河記念基金の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。近況報告として、大学の授業と現在私が所属しているサークルについてご報告したいと思います。

学部 2 年生になり、より深い内容を扱う専門科目の数が一気に増えました。学部 1 年生のときの教養科目、基礎科目と異なり講義のレベルが大きく上がった中、先生がおっしゃった内容を聞き漏らさないよう、自分のものにするよう、日々努力を重ねております。最近は特に量子物理学の講義が興味深いです。今まで扱ってきた古典力学の世界で当たり前だと考えていた性質、事象が大きく覆される点が面白く、興味がそそられます。難易度自体は高いため理解が難しいことも多いですが、先生ができるだけわかりやすく教えてくださるおかげで、挫折せず学習できていると感じています。今後も「面白い」という気持ちを忘れずに学習を続けていきたいと思います。

アルバイトも 2 年目に入り、私にも後輩ができました。現在私は高校時代に通っていた塾でチューターのアルバイトを行っております。後輩に業務を教えていく中で、自分もまだできていない点が次々と明らかになり、未熟さを感じながらもこれを機に完璧にしてやろうとモチベーションが高まるのを感じています。反対に 1 年間で完璧になった業務もわかり、1 年間の努力が身についていると自信にもつながっています。教えるということは自分を見つめなおし再評価することができる素晴らしい機会だと、身をも

って理解することができました。

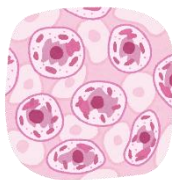
このように現在私は学業、アルバイトを含む私生活、共に充実した日々を過ごしております。今後とも奨学生として皆様のご期待に添えるよう、粉骨砕身の思いで取り組んでまいります。



滋賀医科大学
医学部 4 年

この度は、古河記念基金の奨学生に選んでいただき、誠にありがとうございます。今年度の冬より臨床実習が始まるのですが、奨学金をいただくことができ、勉学および実習に一層注力できることを非常に有り難く思っております。この交流誌では大学での講義および臨床実習について述べさせていただこうと思います。

1～2 年生の頃は語学や理科などの教養科目や、解剖学や生理学などの基礎医学を学んできましたが、3 年生では、病理学や免疫学など「基礎医学と臨床医学の橋渡し」となるような学問を学びました。つまり、低学年で学んだ人体の正常構造・正常な機能の知識を基に、人体に生じる病態を学ぶフェーズに入ったわけです。そして、3 年生後期から4 年生前期にかけて、各診療科の臨床でご活躍の先生方から診療科ごとに必要な疾患、検査や治療についてご教授いただきました。医師として働く上で必要な診療に直結する知識を得る日々は、新たな知識が多く理解するのに苦労することもありましたが、非常に充実していました。この近況便りを書いている今、臨床医学の講義がひと段落し、年明けより始まる臨床実習に出る前の登竜門の「共用試験 CBT」に向けて勉強しているところです。CBT とは、コンピュータ上で医学知識に関する問題が出題される試験で、これまで学んできた医学知識の全てが範囲となります。私の当面の目標は、CBT で自分の納得のいく得点を取り、臨床実習では、患者さんとの関わりの中で実践的な知識・技術を身につけ、医師として働くときのイメージを鮮明に描くことです。古河記念基金の奨学生としての自覚を持ち、健康に気をつけつつ日々精進したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



関西学院大学
生命環境学部
生命医科学科(医工学専攻)2 年

この度は奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

近況について、ご報告いたします。

私の所属する学科では、ヒトを含む哺乳動物に関する生命現象を解明し、基礎医学分野へ応用することで、人の疾病治療や健康維持に役立てることを目指し、日々勉学に励んでいます。

現在は、基礎生命科学や、その基盤となる数学、物理学、化学、PC 技術を踏まえて、より専門性の高い内容の微生物学や(脳)神経科学を主に学修しています。

微生物学では、人の暮らしと健康、また身のまわりの環境に影響を及ぼす微生物(特に病原微生物、抗生物質の作用機序、環境浄化、食品微生物)についての知識を得ました。ナノ～マイクロメートル($1 \times 10^{-9} \sim 10^{-6} \text{m}$)サイズの微生物が、100 万～10 億倍サイズの我々に大きな力を与えることに驚きました。また神経科学では、脳の構造や機能、神経の伝達、感覚(視覚など)・運動(筋肉など)系との連携を学び、脳や神経伝達が日々の感情や行動など多くのことが密接に関係している脳や神経を学ぶことはとても興味深かったです。

さらに、タンパク質や DNA・RNA の解析実験にも取り組みました。具体的には、遺伝子組換えや、プラスミド DNA の抽出、タンパク質の解析に有効な GFP の組み入れとその発現、さらに、成体マウスの組織を実際に取り出し、それから RNA を抽出、PCR 反応による増幅など分子生物学や遺伝子工学の技術の実践により、研究者に一步近づく貴重な経験が得られました。

このように、生体を構成する重要な生体高分子や、細胞、組織など生命現象を解明する上で必要な知識・技術を学び、私が目指す将来像「医療を支える技術の研究者」に向けての生命科学基盤が築かれていると実感しており、充実した学生生活を過ごすことができています。

貴財団のご支援に恥じぬよう、今後も学業および自身の成長に一層励んで参ります。



名古屋大学大学院
理学研究科理学専攻博士1年

このたびはご支援をいただき、誠にありがとうございます。
近況について、以下のとおり報告いたします。

現在、私は博士後期課程に在籍し、重力波検出器の開発に関する研究に取り組んでおります。重力波天文学は、現在急速な発展を遂げている分野であり、検出器の感度向上は、今後の新たな科学的発見をもたらす上で極めて重要な要素です。なかでも私の研究では、検出器における鏡の熱化現象に着目し、それが感度に及ぼす影響の解明と、対策技術の開発を主な目的としています。研究は、基礎的な光学設計から制御系の構築、シミュレーション解析に至るまで、多面的なアプローチで進めております。

主要な活動として、春期にはオーストラリアにて開催された国際会議に参加するとともに、現地の大学において、シミュレーションツールの開発を中心とした研究に組み込みました。また、夏期にはイギリスを訪問し、実験に向けた光学系のセットアップを実施いたしました。いずれの機会においても、現地の研究者の方々との意見交換を通じて、研究の新たな方向性や国際的な視座を得ることができ、大変貴重な経験となりました。円安の影響により現地での出費がかさむ中、経済的なご支援をいただけたことは、研究に専念する上で大きな支えとなりました。改めて、心より感謝申し上げます。

直近では、博士前期課程において取り組んでいた複数の研究成果を整理し、査読付き学術誌への投稿を目指して執筆を進めております。

今後も、いただいた機会を最大限に活かし、引き続き真摯に研究活動に取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



東京大学大学院
農学生命科学研究科博士3年

昨年度に引き続き、奨学生としてご採用いただき、心より感謝申し上げます。私はフェロモンによって引き起こされるマウスの社会行動の研究をしています。マウスでは、特に嗅覚を使って同種の他個体の性別や子供か大人か

という認識が生じます。特に子供という特定の成長段階の認識がどのように生じるかはよくわかっていませんでした。そこで、私は子マウスに応答するようなフェロモン受容体を同定し、現在は、どのようにそのフェロモン受容体を介して子殺しの制御が生じるか、というメカニズムの解明をしています。これまで得られた研究結果をまとめていく段階に入り、先日、新潟で開催された日本神経科学会でポスター発表をしてきました。研究会には何度か参加させていただいていましたが、これほど大規模な学会に参加したのは初めてだったので、とても刺激的な時間を過ごしました。入れ替わり立ち替わり色んなラボの方がポスターを見にきて議論してくださり、自分も興味のある発表を聞いて質問したりと濃密な4日間でした。また、夜もこれから目指したい研究者像とか、興味のある研究、解きたい問いなど、たくさん話すことができ、博論、原著論文執筆のモチベーションがさらに上がりました。世の中に価値のある研究成果を出せるように、執筆を頑張ろうと思います。

最後になりますが、古河記念基金の皆様のご支援のおかげで学業に専念できていることに心よりお礼申し上げます。ご期待に応えられるよう、これまで以上に励んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東京農工大学大学院
先進学際科学府修士1年

平素より多大なるご支援ありがとうございます。
暑さがますます厳しくなる昨今、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は今年度より大学院に進学いたしました。所属している専攻は学部時代よりさらに多様な分野の方がおり、日々刺激を受けております。特に印象に残っているのが、エネルギー効率の良い新たな食糧生産システムを提案せよという講義の課題です。現専攻では昨年度まで所属していた農学部だけではなく工学部の人も多くいるため、半反射ミラーを使ったり道路に用いられている移動式ライトを応用したりしたシステムの提案もあり、今までなかった発想に衝撃を受けるとともに大変面白く思いました。修士論文では、卒業研究に引き続き畑の土壌とリン酸の反応についての研究を行う予定です。卒研では土壌に含まれ

る単一の鉱物を用いて実験を行っていました。修論ではそこから条件を変更した実験や実際の土壌を使った実験を予定しています(写真は実験に使用するために培養している土壌です)。修士論文の方も大まかな計画が経ち、実験でどのようなデータが得られてどのような結論に至るのか今から楽しみです。また、就職活動も始まりました。自分自身や自分の研究内容を客観的に見る非常によい機会となっており、日々成長を感じています。中々軸が定まらず辛い場面が多いですが、自分のキャリアパスを考える重要な局面だと捉えてどうにか踏ん張ろうと思います。



横浜市立大学大学院
生命ナノシステム科学研究科
修士1年

今年も半分が過ぎました。私は日々、研究活動や授業の他に長期インターンシップやアルバイト、研究者コミュニティの運営といった課外活動を積極的にを行い、毎日が刺激や学びで満ちています。今回は、直近の出来事である学会への参加と今後の抱負について簡単にまとめさせていただきます、近況報告とさせていただきます。

私は現在、学部時代から取り組んでいる「海洋細菌による PET 生分解機構の解明」というテーマについて研究しております。先日札幌で開催された環境バイオテクノロジー学会にて、初めてのポスター発表を行ってまいりました。参加する前は不安や緊張でいっぱいでしたが、先生や同期と発表練習を重ね、当日は多くの聴衆から色々なご意見をいただき、活発な議論が繰り広げられたことはとても貴重な経験となりました。9月の上旬には微生物生態学会への参加を控えており、今回の学びを生かしてよりよい発表を準備して参ります。

また、学会では英語での講演を聴いたり海外の研究者から質問を受けたりと、高度な英語力が求められる場面が度々ありました。最後の英会話の記憶といえば高校時代までさかのぼる私にとってこの機会は、再び英語を真剣に勉強したいというやる気を奮い立たせてくれるきっかけとなりました。高校生の頃から中国語、韓国語、フランス語を勉強してきた私は、将来は海外で働くことに興味があります。そのため、就職活動では理系の研究を通して身に付けた“論理的思考力”や“課題解決力”に加えて、こう

した複数言語の“語学力”を武器にしたいと考えており、今後は各言語の資格を取得することを通して、仕事上の意思疎通ができるレベルを目指してまいります。

末筆とはなりますが、私の日々がこのように充実しており、興味のあることも諦めずに挑戦できる環境にあるのはひとえに貴財団からのご支援のおかげであります。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



長岡技術科学大学
工学専攻・物質生物工学分野
修士1年

この度は、昨年度に引き続き奨学生としてご採用いただき、誠にありがとうございます。

私は今年4月より修士課程に進学し、授業や研究、就職活動、部活動、TA 業務など、多忙な日々を送っております。昨年に比べてアルバイトの時間を半分以下に減らさざるを得ませんでしたが、それでも日々の生活を維持できているのは、ひとえに古河記念基金様の奨学金のおかげです。心より感謝申し上げます。

私は大学1年生より麻雀を行う部活動に所属しています。2年生で部長に就任した際、部員数はわずか3人にまで減少しており、部の存続が危ぶまれる状況でした。そこで、新入生勧誘の方針を抜本的に見直すことを決意しました。新入部員が集まらない主な要因として、「部活動の認知度の低さ」や「麻雀に対する世間のイメージの悪さ」があると考え、積極的な広報活動を行いました。新入生歓迎会などを活用して勧誘を行い、学内の数カ所にポスターを掲示するなどして、部の存在を広く周知しました。また、「飲まない・吸わない・賭けない」の健康麻雀を実践し、新入部員への丁寧な指導も行っていることをアピールしました。

それにより、現在では部員数も12名を超え、活動も活発になっています。今年度からは、これまで週1回だった活動を週2回に増やすことができました。さらに、これまで支給されていなかった部活動予算も新たに獲得することができ、交通費の関係でコロナ禍以降参加を見送っていた、東京で開催される学生麻雀連盟主催の大会にも、この夏から参加することとなりました。現在は、大会で良い成績を収められるよう、大会ルールに則った練習に励んでい

ます。

麻雀は運の要素が大きいゲームですが、駆け引きや捨てる牌の判断など、実力が問われる場面も多くあります。常に最適な判断を下すのは難しく、自分の課題を日々実感していますが、初めての公式大会ということで、自分の実力がどこまで通用するのか、非常に楽しみにしています。



北見工業大学大学院
工学部修士 2 年

本年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

近況報告として、大学生活で 4 年間続けてきたアルバイトについてお話しさせていただきます。

私は 5 月に、サロマ湖で 2 週間ほど行われるホタテの稚貝放流のアルバイトをしていました。ここで育てられた稚貝は、1 年かけて成長したのちオホーツク海へ放流されます。私の仕事は、その稚貝を湖から引き上げ、放流用のカゴに移す作業です。

作業は早朝 3 時過ぎから始まり、昼前には終わります。稚貝は暑さや真水に弱く、陸に揚げてからも海水をかけ続けなければならないため、スピードと丁寧さが求められます。今年は天候が良い日が続き、悪天候による休みは 1 日だけだったため、例年よりも体力的に厳しい作業となりました。さらに、私が働いていた漁港ではホタテの発育が悪く、不漁で規定量に届かない漁師さんも多く、一次産業が天候や環境に大きく左右される現実を改めて実感しました。

作業の流れは、早朝 2 時に起きて現場に向かい、3 時半ごろ出港。暗闇の中、稚貝が入った網カゴを引き上げ、中の稚貝を放流用カゴに振り分けます。網カゴに昆布やホヤが付着していると成人男性 3 人がかりで持ち上げても中々つらい重さがあります。そのため、毎日筋肉痛との戦いでした。それでも最後まで頑張れたのは、アルバイト代が高いことに加え、親方の奥さんが作ってくれる美味しいごはんや、普段なかなか食べられない新鮮なホタテやカキを味わえる楽しみがあったからです。

このアルバイトを通じて、一次産業が自然環境にいか

に影響されるかを体で学ぶことができ、貴重な経験となりました。来年からは就職のため北海道を離れ、こうした仕事に関わる機会は少なくなるとは思いますが、大学生活の中で得たこの経験は忘れられないものになりました。

以上が近況報告となります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



帝京平成大学
薬学部 6 年

5 年生から進めていた卒業研究は、6 月に開催された卒業研究発表会をもって無事に終了いたしました。

昨年、臨床実習を終えてから取り組んできた研究が実を結び、3 月には日本薬学会にてポスター発表を行う機会をいただきました。大学の外で説明をしたり、質問に答えたりするのはとても緊張しましたが、分野の異なる多くの方々と意見交換をすることができ、大変貴重な経験となりました。

6 月の卒業研究発表会では、学内の先生方や後輩たちに向けて発表を行いました。学会発表の経験が活かされ、より分かりやすく、質問にも落ち着いて答えられたと感じています。審査してくださった先生方からは「興味深い研究であり、わかりやすい発表だった」と評価をいただき、うれしく思いました。研究活動を良い形で締めくくることができ、ほっとしています。

将来、薬剤師として専門性を高めるために、学会参加や臨床研究へ積極的に取り組んでいきたいと考えている私にとって、今回の経験は大きな財産となりました。

さて、最近ではいよいよ薬剤師国家試験に向けた勉強が本格的に始まり、5 年間で学んできたことの総まとめを行っています。約 7 年ぶりの「受験生」です。勉強方法が正しいのか、本当に身につけているのか、不安や焦りもありますが、勉強だけに集中できる今の環境はとても恵まれており、大学生活の中で今がいちばん楽しいと感じています。

他分野の受験生と同様に、夏は勝負の時期です。目の前の学問をしっかりと自分のものにできるよう、気を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。

卒業後は病院薬剤師として、高度医療に関わる現場で日本の薬学、そして医療に貢献していきたいと考えてい

ます。夢だった薬剤師への道も、いよいよ目前です。自らの手でしっかりと掴み取れるよう、引き続き努力を重ねていきます。



山形大学大学院
理工学研究科修士2年

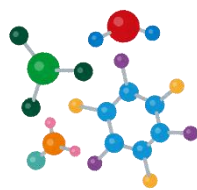
この度は、古河記念基金の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。近況をご報告いたします。

これまで、論文執筆および研究活動に力を注いでまいりました。

論文執筆については、昨年度に得られた研究成果を基に、1 報目となる論文の執筆および投稿を進めておりました。先日ようやく、編集者・査読者とのやり取りを終え、現在は出版を待つ段階となりました。目標としている「2 報の論文提出」に一步近づくことができ、大変嬉しく感じております。また、この研究成果にて参加した学会では、優秀発表賞をいただくことができ、自身の成長を実感しております。

研究活動では、燃料電池に用いる電解質膜材料の性能向上を目的に、新たな化合物の有機合成に取り組んでおります。しかしながら、有機合成に関する経験が浅いため、論文や特許を参考にしているにも関わらず、目的物の回収に難航している状況です。そのため、同大学の高分子系研究室の教授や学生の方々から、有機合成に関する反応の知見やノウハウをご教授いただきながら、現状の打開に向けて日々奮闘しております。本年度は、秋に開催される学会に 3 件ほど参加を予定しているため、それまでに研究成果を得られるよう、全力で取り組んでまいります。さらに、本研究の成果を基に、2 報目となる論文提出も急ぎたいと考えております。

最後になりますが、改めて奨学生として採用いただいたこと、心より感謝申し上げます。残りの半年を大切に過ごし、研究力と人間力をさらに高め、将来的に社会に貢献できる人材となれるよう精進してまいります。



東京科学大学大学院
物質理工学院
応用化学系修士2年

盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日々続く猛暑の中、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

早いもので修士課程の前半が終了し、残すところあと 1 年となりました。私は有機金属化学の分野について研究を行っており、さまざまな化合物の合成のため、研究室に籠りがちな生活を送っております。研究については決して順調ではないのですが、少しずつ前進しており、なんとか研究成果をまとめた論文を投稿することができました。

Ir 触媒を用いた C-H ホウ素化反応の研究をおこなっており、得られるホウ素化体は医薬品材料や機能性材料への応用が期待されます。今後もこうした基礎研究を通じて多くの研究に役立つような分子の創成にチャレンジしていきます。



東京科学大学大学院
物質理工学院材料系博士1年

盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日々続く猛暑の中、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

現在私は博士後期課程 1 年に在学しており、研究活動に専念しております。昨年度はアメリカで開催された国際学会において、口頭発表を行いました。英語での口頭発表の経験は初めてのことで非常に緊張しましたが、自身の研究内容を存分に伝えることができたと考えております。今年度末にも国際学会での発表を予定しているため、準備を万端にして発表に臨む所存です。

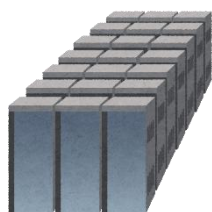
さらに今年の 6 月には投稿していた論文が国際誌にアクセプトされました。論文執筆および査読者とのやり取りは大変苦勞しましたが、非常にやりがいがあり、さらには科学の進歩にも貢献しているという自覚を持つ機会となりました。今後も研究成果の論文化を目指し、ますます研究活動に精進いたします。

また、昨年度参加させていただいた工場見学会は、非

常に有意義な経験となりました。実際の製造現場を見学することで、座学では得られない貴重な知見を得ることができました。今年度も同様の機会があることを励みに研究活動に取り組む所存です。

末筆ながら、古河記念基金様のご支援により、このように研究活動に専念できる環境を与えていただいていることに深謝申し上げます。博士後期課程としての誇りと責任を持ち、これまで以上に自身の研究の意義を深く理解し、その価値を適切に伝えられるよう、日々研鑽を積みみたいと考えております。

今後も一層努力を重ね、期待に応えられるよう邁進してまいります。



早稲田大学大学院
先進理工学研究科
物理学及応用物理学専攻修士1年

今年で研究生生活も2年目に入り、引き続き物理リザーバーコンピューティングに関する研究に取り組んでいます。具体的には、半導体材料を用いて、物理現象を活用してハードウェア上でAI処理が可能なデバイスの実現を目指しています。現在は、光を入力信号として利用することで、エッジAIへの応用を視野に入れた開発を行っています。リザーバーコンピューティングは機械学習の1種で、特に時系列データの処理に優れているという特性があります。ソフトウェア上の機械学習とは異なり、中間層の重みをランダムに固定し、出力層のみを学習することで、高速かつ低消費電力での学習や推論が可能になります。また、光と電気の両方を入力信号とすることで、従来の電気信号だけでは得られなかった新たな情報処理の可能性が広がると考えています。例えば、光の波長ごとの応答特性を活かした多チャンネル並列処理や光センシング機能とのセンサ統合などがあります。これにより、軽量かつ低消費電力なAIデバイスとして、環境情報のリアルタイム処理や自動運転システムのような反応速度が求められる分野への応用も期待されます。今後は材料の応答特性を引き出す物理現象の解明や、特定の課題に合わせてデバイスの動作特性と調整を行い、実用性の高いAIデバイスの開発を目指して研究を進めていきたいと考えています。



東京科学大学大学院
環境・社会理工学院
土木・環境工学系土木工学コース
修士1年

この度は奨学生として採用いただき、ありがとうございます。近況報告として、学会参加とオーケストラの活動について報告させていただきます。

私は、堤防のパイピング破壊に関する研究をしています。堤防の決壊原因の多くが越水ですが、平成24年に矢部川がパイピングを原因として決壊して以降、パイピングに関する研究が進められています。私はこれまで解析ソフトを用いて土水連成解析を行い、パイピングが生じやすい地盤について検討してきました。その内容について、先日学会で発表させていただきました。初めての学会発表だったうえに、私の研究分野の発表者は企業や研究所の方ばかりで、非常に緊張しましたが、専門的な発表をたくさん聞くことができておもしろかったです。学会でたくさん刺激を受け、修士論文に向けてのモチベーションを高めるとも良い機会になりました。

また、研究以外には、オーケストラの練習に取り組んでいます。学部時代に所属していた大学の管弦楽団が今年で100周年を迎えるにあたり、9月に特別演奏会が開催されます。私はコンサートミストレスをさせていただいており、演奏面でメンバーをリードできるように日々練習しています。今回の演奏会は、大学2年生から50代くらいのメンバーまで年齢が様々なので、これまでとは違ったメンバーでとても楽しく練習しています。100周年にふさわしい本番になるよう頑張ります。

以上、簡単ではございますが近況報告とさせていただきます。



慶應義塾大学大学院
理工学研究科
基礎理工学専攻博士 1 年

この度は奨学生と採用していただき、誠にありがとうございます。

私は現在、神経伝達物質ノルアドレナリン (NE) と神経細胞との相互作用の解明を目指した研究を行っております。NE は、注意やストレス応答、自律神経系に関わる重要な物質であり、治療薬の標的としても注目されています。しかしながら、その分子がどのように細胞膜や受容体と結合し、シグナルを伝えるかについては、まだ不明な点が多く残されています。そこで私は、非侵襲かつリアルタイムでの分子観察が可能な CARS (コヒーレント・ラマン散乱) 顕微鏡を用い、NE の結合ダイナミクスや細胞内での局在変化を可視化する研究を進めています。ラットの神経細胞を用いて実験系を構築し、NE 拮抗薬を使った解析にも着手し始めました。

また、今年 6 月には、日本分光学会の年次講演会および日台国際ラマンシンポジウムに参加し、自身の研究成果をポスター形式で発表いたしました。多くの研究者の方々と活発な意見交換を行う中で貴重なご意見を頂戴し、大変有意義な時間となりました。

さらに、日台国際ラマン分光シンポジウムではポスター賞を賜り、身に余る光栄と感じております。このような貴重な経験を得ることができたのも、ひとえに貴財団の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

研究以外の生活面では、最近少し体重が増えてきたことをきっかけに、友人と一緒に週に数回ジムに通い始めました。運動をすることで気分転換にもなり、健康面でも良い影響を感じております。心身ともに良いバランスを保ちながら、今後も研究に集中して取り組んでいきたいと思っております。



東京大学大学院
農学生命科学研究科修士 2 年

残暑が身にこたえる頃だと思われそうですが、ご機嫌いかがでしょうか。頂いた奨学金のおかげで研究や大学生活に専念することができております。ありがとうございます。

新年度に入ってはや 4 ヶ月も経ちました。私の研究室にも 4 月に新入生が 5 人やってきましたが、皆とても話しやすく仲良くやることできています。これまで私の研究室には私以外女性の日本人学生がいなかったのですが、新しく 2 人入ってきてくれたので、今まではみんなで銭湯に行っても入るときは 1 人だったのが一緒に入る人ができたのがとても嬉しいです。特に 4 年生の方は研究室の雰囲気がとても気に入ったようで、これまでも何度かプライベートで遊びに誘ってくれました。GW には多摩の方に数人で登山に行き、今度は富士山にも行きたいと言い出したので同じメンバーで 8 月には富士山に挑戦します！先日はそのための装備を一緒に買いに行きバックパックや登山靴など奮発しましたので、社会人になっても一緒に登りに行こうということになりました。年齢は違うものの気の合う友達ができたことはとても嬉しいです。他にも 2 人 4 年生がいるのですが、1 人は適当で手がかかるものの、人付き合いがうまくていつもつい絆されてしまうような子で、もう 1 人は物静かですが時折ぼそっと毒のある発言をするのが味があって面白い子です。皆個性が強いですが面白くて良い子ばかりなので、残り短い研究室生活も一緒に楽しくやっていけそうです。

厳しい残暑ももう一息かと存じますので、くれぐれもご自愛ください。



大同大学大学院
工学研究科
電気・電子工学専攻修士 1 年

本年度も引き続き、奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。

今年から修士になり、学部 4 年の頃の埋め込み磁石同期モータの小型・高効率・トルクの脈動の低減の研究を引き続き研究していくことになりました。近況報告についてですが、今回は修士になってからのことについて述べようと思います。

まず講義について、学部生の頃の講義と違いテストがないのはありがたいのですが、受ける講義のほとんどはレポートを出さないと成績がつかず、レポートを書くのにだいぶ苦労しました。しかし電気電子についてより深く学べ、また経済学やベンチャー等、社会に出てから役立つよう

な講義もあり、修士に進学してよかったなと思いました。

研究室について、学部生の人と一緒に研究をしているのですが、集中力が切れたとき親睦を深めるのを兼ねてトランプをして息抜きをしています。最近はトランプに費やす時間が 1、2 時間超えてきて、そろそろ作業の続きをしなければと思いつつも、つつい遊びでしまうのが悩みです。

修士になってから学部生からの質問に答える立場にあるのですが、まだまだ勉強不足なところが多く、もっと勉強しなければいけないなと感じています。

最後になりますが、残りの約 1 年半これからもっと精進していき結果を残していきたいと思っています。



大阪大学
医学部医学科 3 年

この度は、奨学生として採用いただき、心より御礼申し上げます。近況として、研究活動および部活動についてご報告いたします。

私は、自己免疫疾患の発症メカニズムを分子レベルで解明し、根本的な治療法の確立に貢献することを目指し、研究に取り組んでおります。1 年次には、HLA (ヒト白血球抗原) という、個人ごとに異なる免疫認識分子と自己免疫疾患の関連性について研究を行いました。その後、2 年次の講義をきっかけに、「細胞間接着と自己免疫疾患との関係」という新たな視点を得て、研究の構想をさらに深めることができました。

今年 9 月からは新たな研究室に所属し、「免疫と神経のクロストーク」に焦点を当てた研究に取り組みます。特に、「病は気から」という言葉に象徴されるような、神経系と免疫系の相互作用をリンパ球の循環動態という観点から解析できるという点に、強く知的好奇心をかき立てられました。さらに思い返せば、中学 3 年生のときに「笑いがもたらす健康への影響」というテーマで課題研究を行っており、当時の関心が今、学術的な形で再びつながっていることに大きな感動を覚えています。今後も、自らの好奇心に素直に向き合いながら、学問を深めてまいります。

また、学業と並行して、課外活動にも積極的に取り組んでおります。3 年次からは音楽系の部活動で部長を務めることとなり、「誰もが参加しやすく、心地よく集える場をど

う作るか」を常に意識しながら、新しい企画や仕組みづくりに取り組んでいます。さらに、兼部している卓球部では大会に向けて練習を重ねており、単なる努力にとどまらず、「考えて動く」ことを大切に日々精進しています。

このように、今年度は研究者として、そして一人の人間として、さまざまな挑戦を通して大きく成長できる一年にしたいと考えております。このような環境で意欲的に学び、活動に打ち込むことができるのは、ひとえに貴基金のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



東京大学大学院
理学系研究科
物理学専攻修士二年

今回は私の研究テーマの一つ、「キロノバ」についてご紹介したいと思います。

キロノバとは、「中性子星」という非常に高密度な天体が 2 つ衝突・合体することで生じる現象です。このとき、莫大なエネルギーが放出され、金やプラチナなどの重い金属元素(重金属)が合成されます。

我々の身近にある金属の起源は長年、天文学における大きな謎でした。そもそも宇宙が始まった直後では、水素とヘリウムという軽い元素しか存在していませんでした。その後、星の内部での核融合反応によって、徐々に重い元素が作られていきましたが、実は核融合で作れるのは鉄までで、それより重い金属は生成できません。

金などの重金属の起源は謎のままでしたが、近年の観測によって、キロノバにおいて重金属が合成されることが確認され、長年の謎に一つの答えが示されました。

現在の私たちの研究は、次のステップに進んでいます。それは、キロノバで合成される金属の種類と量を明らかにすることです。そのためには、キロノバから放出される光のエネルギーや波長を詳しく調べる必要があります。

しかし、これには大きな課題があります。中性子星同士が合体する際に放出される物質の密度が比較的低いため、それぞれの金属の信号が非常に弱く、一部の元素について見分けがつかない状態になっているのです。

そこで私たちは、「偏光」という光の性質に注目しています。偏光とは、光の波の振動方向が特定の方向にそろっている状態を指します。キロノバのように非対称な構造を持ち、かつ密度の低い環境では、偏光が強く現れることが期待されています。

私は現在、共同研究者とともに、キロノバの偏光を理論的に計算し、その観測の可能性を探っています。これにより、キロノバでどのような重金属が作られているのか、より明確に理解できるようになることが期待されます。



東京科学大学大学院
物質理工学院修士 1 年

この度は、貴財団の奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。授業や研究活動で忙しい日々を送っていますが、貴財団のご支援によって通学費等の経済的な負担が減り、充実した学生生活を送ることができています。現在、私は燃料電池触媒への応用に向けた白金サブナノ粒子の合成とその触媒活性評価について取り組んでいます。一般に市販されているナノスケールの金属粒子よりもさらに微小化した金属サブナノ粒子は比表面積の高さから、高い触媒活性が期待されております。学部4年次であった去年から引き続き同じ研究室に所属しており、これまでの1年でわずかではありますが実験操作の手際が良くなったなと思うようになりました。また指導教員とのディスカッションの際は、触媒のよりよい設計のために実験手法の変更を自ら提案するなど、配属当初よりも頻繁かつ自発的に議論できるようになったとも実感しています。

先日の奨学金支給決定書交付会に参加した際、様々な学年、専攻の奨学生の方々とお話しすることができました。生命科学や数学、天文学といった分野の研究をされている方々に自身の研究内容をうまく伝えることができたかどうか不安でしたが、専門が違うからこそ普段とは異なる経験ができたと思います。この場をお借りして、貴重な交流の機会を頂けたことに感謝申し上げます。



金沢大学大学院
地球社会基盤学専攻修士 2 年

日頃より温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。私は、気候変動が台風や爆弾低気圧の性質や発生パターンに与える影響を明らかにし、それが日本沿岸域の災害リスクにどう関わるかを研究しています。主に、気候シミュレーションデータ(d4PDF)や再解析データ(JRA55)を用いて、過去と将来の低気圧の経路や通過頻度の変化を解析しています。最近、災害外力の空間分布や、沿岸通過の統計的傾向の可視化に取り組んでおり、ようやく定量的な成果のとりまとめに向けた準備が整ってきた段階です。

一方で、私生活にも大きな変化がありました。これまで私は、学部時代にオーケストラサークルに所属していたものの、日常的に体を動かす習慣はほとんどありませんでした。大学院に進学してからは座りっぱなしの生活がより一層増え、運動不足を実感する日々が続いていました。そんな折、友人に誘われて5月から本格的に筋力トレーニングを始め、週に2〜3回の頻度でジムに通っています。ベンチプレスやスクワットといった基本種目を中心に継続しています。やればやるほど重量や回数が伸び、成果が数字として実感できるため、大きなモチベーションにつながっています。

また、昨年に引き続き金沢マラソンへの出場が決まりました。今年は昨年のタイムを更新することを目標に、有酸素運動にも積極的に取り組んでいます。研究との両立は簡単ではありませんが、運動を取り入れたことで生活リズムが整い、結果として研究への集中力も向上しているように感じています。

今後も、研究と生活の両面でバランスを保ちながら、自身の成長に努めてまいります。以上、簡単ではありますが、私の近況報告とさせていただきます。



中央大学
理工学部都市環境学科 4 年

本年度も引き続き奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。

学部 4 年生となり、今年度からは研究室に配属され、日々研究活動に励んでいます。現在私は、携帯位置情報データを用いた公園に関する研究を行っています。具体的には、携帯位置情報データを用いて公園の訪問者数を推定し、公園の設備や環境が訪問者数に与える影響や、公園の価値を定量的に明らかにすることを目指しています。4 月からの 3 ヶ月ほどは主に論文をたくさん読むことで研究の基礎や先行研究について学び、今は分析に使用する大量のデータをどのように処理しようかと試行錯誤しながら進めている段階です。成果が出るまでまだ先は長そうですがひとつひとつ着実に取り組んでいこうと思います。

また、最近はゼミや授業などでも人前で発表する機会が多くあり、少しずつですがプレゼンテーション力の向上を実感しています。このように社会に出て必要な能力を今のうちから伸ばしていきたいと考えているところです。

進路に関しましては、4 月に大学院の推薦入試を受験し無事に合格をいただいたので、大学院へ進学する予定です。

今後も奨学生としての自覚をもち、ご支援に応えられるよう学業にいつそう励んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



明治大学
理工学部電気電子生命学科3年

学部3年生となり、研究室の配属やインターンシップの選考、より専門的になった授業などの「やるべきこと」が増え、多忙ながらも充実した大学生活を送っています。最近で電気電子系の実験が週1回行われるようになり、手を動かす力や考える力が培われてきたように感じます。この実験では毎回 Word20 枚ほどのレポートを作成し、実験結果や考察をほかの人が見て分かりやすい形で書く必要があります。2年生以前と比べると内容や量も増えています

が、良い意味での慣れが生まれたことで、実験も手際よく、レポートも見やすく、簡潔に、スムーズに書くことができるようになりました。学部4年生から本格的な研究が始まりますが、この実験で得た力をもって、コツコツと研究していきたいです。また、先述した通り今後配属される研究室が5月に決定しました。私はドローン等を用いて制御工学を学ぶ研究室に配属されました。様々な研究室を見学し、一番行きたいと考えていた研究室に進むことができたので、とてもうれしいです。



東京科学大学大学院
工学院機械系博士 2 年

昨年度まで東京都立大学に在籍していましたが、指導教員の異動に伴い、現所属に転入学しました。私は計算バイオメカニクスという学問を専攻しており、細胞骨格の力学モデルの構築とシミュレーション、妥当性検証のための細胞実験に取り組んでいます。細胞骨格とは、細胞の形態や力学特性を担う細胞の構成要素の 1 つであり、細胞のダイナミクスにとって必要不可欠なものです。生体現象の数値モデリングには、従来の力学だけでなく、分子レベルの現象を統計的に扱う統計力学、細胞生物学や分子生物学などの幅広い知見が求められます。また、生体現象をモデリングすることの意義も深く練る必要があります。論文としてまとめる作業の難しさを常に実感しています。論文文化のほかに、外部発表としてニュージーランドでの国際学会、学生主体の研究交流会の企画・運営もあるため、中々ハードですが充実した日々を過ごしております。



大阪大学
工学部3年

暑い日々が続いておりますが皆さまいかがお過ごしでしょうか？

私は今学期より、専門科目の講義および実験科目が本格的に始まり、多忙な日々を送っております。特に、週 2 回行われる実験・演習は、事前準備からレポート作成まで多くの時間を要しており、帰路が暑いからか課題に追わ

れてかはわかりませんが暗くなるまで図書館にこもる日々が続いております。

実験については当初は不慣れな点が多く戸惑うばかりでしたが、回を重ねるごとに実験器具の扱いや手順を習得し、円滑に進められるようになってまいりました。先日、教科書に記載されている反応が目の前で再現された際には、座学で得た知識が現実の現象として結びつくことに楽しさを感じました。また学業以外では、新たな人間関係を築く機会にも恵まれ、充実した学生生活を送っております。実験を通してグループのメンバーと懇親を深めるだけでなく、先生方や先輩と話す機会が増え、将来の展望について考える機会も増えてきました。

多大な課題とレポートに追われる日々は今後も続くものと推察されますが、ひとつひとつ着実にこなしていき、今後のキャリアについても考えていければと思います。



順天堂大学
薬学部 2 年

このたびは、古河記念基金の奨学生としてご支援を賜り、誠にありがとうございます。日々学業に専念できているのは、ひとえに皆様の温かいご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

現在、私は薬学部の 2 年生として、講義や実習に励む毎日を送っています。薬学や医療の基礎に加え、臨床・基礎の両分野での実習も本格化し、知識だけでなく、実践的な技術や考え方を学ぶ機会が増えてきました。また、学業以外にも、委員会活動や部活動、さらにはアルバイトにも取り組んでおり、多忙ではありますが非常に充実した学生生活を送っています。

来年度には研究室配属を控えており、希望の研究室に入るためにも、日々の授業や試験に真剣に向き合い、成績の維持にも力を入れています。将来は、自身が抱えている膠原病や自己免疫疾患に関する研究に携わり、病気で悩む方々の生活の質向上に貢献できる薬剤師・研究者を目指しています。

これからも初心を忘れず、いただいたご支援への感謝を胸に、勉学と経験を重ねてまいります。



東洋大学
理工学部 2 年

最近、私が特に力を入れて取り組んでいるのは、大学の設計課題です。春学期には「ギャラリー」「住宅」「図書館」の 3 つの課題に取り組みました。設計の授業は、建築を学ぶ中でも特に楽しみにしていたもので、毎回多くの気づきと学びがあります。

最初の課題では、自分のリサーチ不足や知識の浅さから、思うような成果を出すことができず、悔しさが残りました。その経験をふまえ、2 回目の課題では参考事例の調査や図面の精度向上に努めた結果、学年で 1 位という評価をいただくことができました。ただ、構造に関する理解が十分ではなかったことや、特定の建築家の作風に強く影響を受けすぎていた点は反省すべき点として残りました。

3 回目の図書館課題では、それまであまり触れてこなかったタイプの建築にも意識的に目を向け、視野を広げることを心がけました。結果として、以前よりも柔軟な発想で設計に取り組むことができ、最終的に 2 位という評価をいただきましたが、それ以上に、自分の考えに納得がいく形にまとめられたことに手応えを感じています。

これらの課題を通じて、建築に対する理解が深まり、日々の学びの積み重ねの大切さを改めて実感しました。夏季休暇中には、授業でお世話になった先生の建築事務所でオープンデスクに参加する予定です。実務の現場に触れることで、これまでの学びをさらに実感のあるものにできればと考えています。

今後も、一つひとつの課題に真摯に向き合い、地道に努力を重ねながら、より良い建築を目指していきたいと思っています。



公立諏訪東京理科大学
工学部 2 年

私は、現在、研究などはしていなく、学業生活とアルバイトに勤しんでいます。今年の夏休みは、古河記念基金様の奨学金を利用させていただいて、海外インターンシップに行く予定です。そのため、その準備で少しバタバタしています。しかし、思ったより費用が掛からなかったのも、アルバイトを少し控えて勉強に専念しようと考えています。

先週はテスト期間で、アルバイトを少しお休みさせていただいて、大学に夜遅くまで残り勉強を行っていました。そのおかげで、試験の出来は自分の中で納得のいくものになりました。私たちの大学では後期からコースがわかれ、9月にコース選択をしなければなりません。自分の中では、行くコースはすでに決めているので悩んではいませんですが、私の友達は私と違うコースなので、少し悲しいです。それは、授業や休暇のみならず、テスト期間の時も共に過ごした戦友のような存在だからです。これからも、精進して学生生活を送りたいと思います。



横浜国立大学大学院
理工学府化学・生命系
理工学専攻博士2年

残暑と言わず盛夏まっしぐらの中、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

当方は、暑さに耐性が出来ていないため脱水や熱中症に気を付けるために様々な対処を続けています。おすすめはクーリッシュを買うことです。持ち運び型保冷剤としてとても優秀ですよ。

さて、閑話休題。

博士課程後期2年にもなりますと、研究の終わりも近づいてきます。所属している研究室では、既に博士論文に向けた序論を書きはじめようになっており、今までつけたことも無いような引用数にあたふたとしている状態です。

その他にも博士課程後期の修了条件として、国際学会への参加が条件としてあります。この国際学会が私にとってはとてつもない面倒なのです。生まれてこの方、外国旅行もしたことが無ければ、クレジットカードの作成もしていない。そのため、外国に行くために必要な準備が雪崩のように襲い掛かってきています。そして、この準備を阻害する要件に就活や日頃の研究が関わってきて、全然進んでないという状態なんですね。こりゃまいった、ということで今年の夏休みは外国旅行のための諸準備に時間が割かれることになりそうです。一先ずマイナンバーカードの作成からですね。

総括として、皆さんに伝えておきたいことはただ一つです。身分証明書用にパスポートを作成しておく、不意の遠征に備えられて便利ですよ。運転免許証と違って歳を取っても返還しなくていいですしね。

ということで、私からの近況報告は以上になります。皆さんも身の回りには気を付けて。

P.S.この文章は ChatGPT の監修を受けておりません。

卒業生から後輩、古河グループへのメッセージ

2024 年度をもって奨学生を終えた方々から、後輩の奨学生や、古河記念基金を支援していただいている古河グループの方々へのメッセージです。

(慶應義塾大学大学院)

本奨学金受給開始から修士課程修了まで、コロナ禍、イタリア留学といった、大学入学時には予想だにしていなかった出来事を経験した学生生活となりました。そのようなチャレンジングな学生生活を全うできたのは、長きにわたる古河記念基金の皆さま方の手厚いご支援の賜物に他なりません。イタリア留学中も、記録的な円安と物価高の中にありながらも、経済的な不安を感じることなく学業に専念することができました。今後は、一社会人として、私を育ててくれた日本という国、そして家族に、少しずつながらも恩返しをしていく所存です。末筆にはなりますが、長い間の多大なるご支援に衷心より感謝申し上げます。

(早稲田大学大学院)

奨学生の皆さんへ

皆さんがこの貴重な機会を得て、夢や目標に向かって努力を続けていることを心から応援しています。私もこの奨学金を通じて多くの学びと成長を経験しました。困難に直面することもあるかもしれませんが、決して諦めずに挑戦し続けてください。皆さんの未来が明るく、素晴らしいものであることを願っております。

引き続き、学業や研究活動に励んでください。

古河グループの皆様へ

この度は、奨学金およびご支援を賜り、心より感謝申し上げます。この貴重なご支援により、学業や研究活動に専念できたことは、私の成長と未来のキャリアにおいて大きな影響を与えております。皆様のご期待に応えられるよう、引き続き努力してまいります。

今後とも、奨学生の支援活動が益々発展し、多くの学生たちが夢を実現できることを願っております。誠にありがとうございました。

(横浜国立大学)

大学院でのご支援、心より感謝申し上げます。皆さまのおかげで、経済的な不安を抱えることなく、研究に専念できました。おかげさまで、複数の学会に参加し、論文を投稿することができ、貴重な経験を積むことができました。今後も引き続き大学に在籍し、古河記念基金奨学生 OB としてその名に恥じぬよう、研究に邁進していく所存です。この度は、誠にありがとうございました。

(慶應義塾大学)

この度は、古河記念基金からのご支援、本当にありがとうございます。奨学生としての経験は、私にとって大きな励みになり、学業や研究に対する意欲をより一層高めてくれました。日々の努力を支えてくださっている古河記念基金の皆さまの温かいご支援に、深く感謝しております。これからも一生懸命努力し、自分自身を成長させていきたいです。後輩の奨学生の皆さんも、素晴らしい未来に向かって頑張ってください！皆さんの活躍を心から応援しています。

(慶應義塾大学)

この度は、古河記念基金を通じて提供される貴重な奨学金を通じて、私たち後輩の学びと成長の機会を広げていただき、心より感謝申し上げます。古河グループの皆様のご支援があることで、私たちは学問的な探求はもちろん、将来のキャリアに向けての夢を追い続けることができます。

(大阪大学大学院)

学部2年生の時から6年間のご支援、誠にありがとうございました。

私は大学院(博士後期課程)に在学中で、引き続き研究に励んでいます。この6年間の思い返すと、最も大きな金銭的なダメージとして、COVID-19の感染拡大に伴うアルバイトのシフト縮小がありました。さらにコロナ禍が明け始めたと思えば、研究室配属によりアルバイトをする時間がごくわずかに限られてしまいました。このように思うようにアルバイトができない期間が長かった中で、学業面も(サークルや旅行などの)プライベート面もしっかり充実させたい私にとって、古河記念基金さまのご支援が非常にありがたい存在となっていました。後輩の奨学生のみなさまにも、長いようで短い学生生活を通して、ぜひ学業面・プライベート面の両方を満喫してほしいと思います。今しかできないこと、今しか行けない場所はたくさんあるので、後悔のないように貴重な学生生活を過ごしていただきたいと思います。長くなりましたが、改めまして6年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(京都大学大学院)

長きにわたり多大なご支援をいただき、大変感謝しております。私は修士課程から行っている神経に関する研究を継続し、博士課程に進学いたします。奨学生として採択いただいた学部生の時分、研究には漠然とした憧れがあるのみでした。当時から興味があった神経科学の研究室に参加し、今では初めての論文を国際誌に投稿するに至りました。研究者としてはまだまだ未熟者ですが、かつての憧れに多少近づいたと思っております。少なくとも現在の日本では、進路について考える際、アカデミアの道は明らかに経済的な面で見劣りします。この状況で、修士課程、ならびに博士課程への進学を決断できたのは奨学金による生活支援の存在が大きかったと考えております。繰り返しになりますが、ご支援いただいた古河記念基金と古河グループの皆様にご心より感謝申し上げます。いただいた支援を無下にせぬよう邁進いたします。大変ありがとうございました。

(慶應義塾大学大学院)

はじめに、大学2年生から6年間という長きにわたり古河記念基金様より厚いご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。金銭的な援助のもと、安心して大学の学問に集中することができました。また工場見学会の参加を通じて、自らの知らない世界に触れる貴重な機会をいただきました。奨学生の皆様との交流も大変興味深く、年月を経た今でも鮮明な思い出として覚えております。

新年度、私は引き続き後期博士課程に在籍しております。奨学生として過ごした日々を大きな糧として、まとまった成果が得られるよう変わらず研究に邁進していく予定です。

最後になりますが、古河記念基金、古河グループの益々の発展、そして皆様のご健勝・ご多幸を心よりお祈りしております。奨学生の皆様におかれましては、お体を大事に、学生の特権を存分にいかしながら、充実した学生生活をお過ごしください。改めまして皆様、誠にありがとうございました。

(金沢大学)

この度は5年間もの間、奨学金のご支援をいただき、誠にありがとうございました。私は、幼少期より薬剤師として働くのが夢で、奨学生としてご採用いただけたおかげでその夢を叶えられました。アルバイトをして生活費の一部を補填してい

ましたが、奨学金のご支援があり、卒業発表後は国家試験に向けた勉強に集中して取り組むことができました。その甲斐があり、先日行われた国家試験では無事合格ラインに到達しました。ご支援を頂いたことに恥じぬよう、就職後は6年間学んできたことを活かして臨床の場で活躍し、患者様の健康を支えられるよう努力致します。最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

(信州大学大学院)

大学 2 年生から今までの 5 年間奨学金をご支給していただき誠にありがとうございました。奨学金のご支援のおかげで学業やフットサル部での活動、研究などに集中して取り組むことができました。フットサル部での活動では全国大会に出場し、非常に貴重な経験をする事ができ、研究活動ではほぼ毎日研究室に通い、実験等に集中することができました。来年度からは社会に貢献できる技術者となれるよう、より一層精進したいと考えております。最後になりますが、ご支援して下さった全ての方々に重ねてお礼申し上げます。

(東京農工大学大学院)

この場をお借りして、古河グループの皆様より多大なるご支援を賜りましたことを感謝申し上げます。学部 3 年次より 4 年もの間ご支援いただき、学業・私生活とも充実した日々を送ることができました。学生最後の一年は特に、学業に関して充実した日々を送ることができたと感じています。具体的には、研究活動の一環としてフランスに渡航し、現地の研究者の方とディスカッションしたり、台湾で開催された国際学会に参加して、研究成果を発表したりすることができました。いずれも、奨学金によって満足に研究に取り組める環境があったからこそ実現したものと考えています。就職先でも研究に邁進し、社会に貢献できるよう努力してまいります。後輩の奨学生の方々におかれましては、支えてくださる多くの皆様がいることを忘れず、夢に向かって日々全力で過ごしていただきたいと思います。

(立命館大学大学院)

古河記念基金の皆様、平素より大変お世話になっております。この度は、貴財団の奨学金支援により、大学院を無事修了することができました。この場をお借りして、日頃のご支援に深く感謝申し上げます。今後は、社会人として、また研究者として、社会に貢献できる研究成果を出せるよう一層精進してまいります。改めまして、温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。また、奨学生の皆様におかれましては、学生時代にしかできないことに思う存分打ち込んでいただければ幸いです。それら経験は、将来、何らかの形で役立つものと存じます。皆様が日々を大切に、有意義に過ごされますことを、心よりお祈り申し上げます。

(東京大学大学院)

大学の学部から大学院にかけて長い間ご支援頂き、誠にありがとうございました。貴財団のおかげで、就職活動や研究生生活に専念することができました。そして、2025 年3月に修士課程を無事に修了することができました。貴財団による奨学金のみならず、工場見学会での学びの機会や奨学生同士の交流の機会も私の人生にとってかけがえのない経験になっております。卒業後は、高校の理科(生物)教師として、働く予定です。生徒に科学の魅力を少しでも感じてもらえるよう、科学リテラシーを身につけさせることができるよう、精進してまいります。後輩の方々もぜひ頑張ってください。奨学金の支援があったからこそ、研究や進路に向けて集中して取り組むことができたと感じております。本当にありがとうございました。最後に、古河記念基金の皆様のご支援に心から深く感謝申し上げます。

(中央大学)

支援のおかげで金銭面の不安なく無事に卒業することが出来ました。
ありがとうございました。

(東洋大学)

このたびは 2 年間にわたり、奨学生として温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで、大学 4 年次には有意義な時間を過ごすことができ、世界規模のセキュリティ大会で決勝に進出した経験や、IEEE の国際会議において発表を行うなど、多くの成果を残すことができました。ひとえに貴社のご支援があつてこそと、深く感謝しております。末筆ながら、貴社ならびに古河グループの益々のご発展と、奨学生の後輩の皆様の一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(芝浦工業大学大学院)

大学院の 2 年間、奨学金のご支援を賜り誠にありがとうございました。おかげさまで、研究活動に専念することができ、充実した 2 年間を過ごすことができました。修了後は、兼ねてより希望していた橋梁設計に携わる職に就きます。研究を通じて得た知識を活かし、目標としている長大橋梁の設計業務に挑戦していきたいと考えております。しかし、学んだこと以外にも多くの知識が必要となるため、今後も日々精進してまいります。最後に、古河グループにご支援いただいたことを忘れず、一層努力し社会貢献できるように努めてまいります。

(公立諏訪東京理科大学)

ご支援いただいたおかげで、研究活動に集中することができ、4 年生の 4 月から始まった新しい研究テーマを同年 11 月の学会で発表できるほどの結果を短い期間で残すことができました。大学 3 年生から 2 年間のご支援ありがとうございました。これから社会人として、大学で得られた経験を基に、より成長していきたいと思いをします。

(長岡技術科学大学大学院)

奨学生へ

冷たい頭と熱い心をもって学生生活を送ってください

古河グループの方々へ

このたびは、奨学金を賜り誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、学業および研究に専念することができ、充実した学生生活を送ることができております。心より感謝申し上げます。今後も一層努力を重ね、社会に貢献できる人材となるよう精進してまいります。

(東北大学大学院)

二年間の奨学金のご支援誠にありがとうございました。学部時代は深夜までのアルバイトで勉学に打ち込めておりませんでしたが、貴財団の奨学金により、修士課程では研究に全力を注ぐことができました。修士研究では全く新しい周辺建物を変数として組み込んだ独自 AI ファサード生成システムを作成し、この運用方法を新たなプロセス論として展開しました。青葉奨励賞という学内賞も受賞することができ、これは貴財団のご支援がなければ叶うことはありませんでした。また、入社後は日本の建築設計における良い側面を残しつつ、対して、凝り固まった固定観念を取り払うような全く新しいプロセス論を最新テクノロジー等と上手に付き合いながら開発していく所存です。後輩の方々は私よりも断然優秀だと思います。奨学金というご支援を十分に活かして、研究に励み、明るい活発な日本を共に創りたいです。この度は、多大なるご支援ありがとうございました。

(北海道大学大学院)

古河記念基金ならび古河グループ関係者の皆様、この度は長きに渡り、私の学生生活や研究活動の多大なご支援をして頂き、誠にありがとうございました。大学院での充実した研究活動を続けられたのは皆様のおかげです。感謝してもきれませんが、この御恩は今後社会への貢献という形で返していきたいと考えています。

個人的な話になりますが私の祖父は若い頃、非常に優秀な学生だったそうで、しかし経済的理由により学問に励むことが出来ず後悔していました。その後祖父は教師となり、祖父のような貧しい生徒や身体の不自由な学生への教育・指導に尽力したと聞いています。亡くなる前には「おじいちゃんが出来なかった分までとことん勉強してほしい」と私に話していました。古河記念基金ならびに古河グループの皆様の多大なご支援のおかげで祖父の想いも叶えることができました。本当にありがとうございます。

また後輩となる奨学生の皆様には、周囲への感謝を忘れないで頂きたいです。

私の充実した研究活動は、基金関係者の方々や周囲の方々の応援に大きく支えられてこそ続けることが出来ました。少なくない金額を要する学生生活を送れるのは決して当たり前のことではないと思います。皆様も感謝の気持ちを忘れず修学に励んで頂きたいです。

拙い文章となりましたが、読んで頂きありがとうございました。

(山形大学大学院)

これまで奨学金のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援のおかげで、経済的な不安を抱えることなく、学業や研究に専念することができました。特に、専門分野の学びを深めるための教材購入や資格取得、さらには課外活動への参加など、貴重な経験を積むことができました。皆様のご支援があったからこそ、ここまで成長できたと実感しております。本当にありがとうございました。奨学金は単なる経済的な支えにとどまらず、「学び続ける意欲」や「社会に貢献したい」という思いを後押ししてくれるものでもあります。この支援を受けたことで、私自身も将来、後輩や社会に貢献できる人間になりたいと強く思うようになりました。最後に、改めて奨学金を支援してくださった皆様に心より御礼申し上げます。これからも努力を惜まず、学びを深め、社会に貢献できるよう精進してまいります。

(富山大学大学院)

古河グループの皆様、2年間にわたる奨学金のご支援、誠にありがとうございました。

この大学院生活では、金銭面の不安が解消され、研究に専念できたおかげで、空飛ぶクルマに搭載するアンテナの開発を形に残すことができました。また、他の奨学生との交流を通じて新たな視点を得たり、研究への姿勢を見直す機会を得たりと、多くの成長を実感しました。

後輩の奨学生には、情報を取捨選択し、常に思考し続ける研究者になってほしいと願っています。従来のフォーマットにとらわれず、研究者と積極的に交流しながら、自身の研究を形にする貴重な時間であることを意識して過ごしてください。改めて、深く感謝申し上げます。

(金沢工業大学)

ご支援をしていただきありがとうございました。ご支援をいただいたため勉学に励むことができ、おかげさまで卒業をすることができました。後輩の奨学生の方々も充実した学生生活を送れるように応援しています。

(京都大学大学院)

修士課程での2年間、多くのご支援をいただいたお陰で、存分に研究に励むことができました。誠にありがとうございました。

私は土木分野の地盤力学系統に所属しており、大雨に伴う堤防の破壊や土石流の発生など、水の浸透によって引き起こされる地盤の破壊現象を数値解析で表現する研究に取り組みました。修士課程に入ってから始めた研究テーマということもあり、解析手法やプログラミング言語などの基礎的な学習から始まり少し苦勞しましたが、先行研究における課題を少しずつ改善し、国内外の学会でその成果を発表することができました。

修士後も土木分野に携わり、研究生活で培ったことを活かしながら、社会に貢献できる人材となれるよう、精進していきます。2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

(山形大学)

初めに、古河記念基金及び古河グループの方々の多くのご支援いただき誠にありがとうございました。頂いた奨学金のおかげで、何一つ不自由なく学生生活を送ることができただけでなく、研究に集中することができました。その結果、国内学会4件、国際学会1件の発表を行うことができました。さらに、卒業研究の内容に関して筆頭著者として執筆した学術論文が先日受理され、かつ優秀論文賞に選出いただくことができました。これらの研究業績は、古河記念基金のご支援を頂戴いたしましたおかげでございます。今後も研究活動に邁進して参ります。

(長岡技術科学大学大学院)

この度は奨学金を受給させていただき誠にありがとうございました。このおかげで、学生生活を修了することができました。奨学金の主な用途としては、食費や雑費にあてさせていただきました。特に、研究活動で忙しくなった時に、軽食を買って済ませることが多かったため、大変食費の面で助けていただきました。

後輩の奨学生の皆さんには、今後も有意義な奨学金の使い道を考えて、よりよい学生生活を送ることを期待しております。最後になりますが、古河グループの皆さんには、大変感謝しております。このご恩は、社会に還元していきたいと考えております。ありがとうございました。

(東京工業大学大学院)

この度、古河記念基金からの奨学金を終了するにあたり、心より御礼申し上げます。

学業に専念できる環境を整えていただいたこと、温かく見守ってくださったことに深い感謝の念を抱いております。おかげ様で学問だけでなく人として成長することが出来ました。

後輩の小学生の皆様におかれましてもおおきなチャンスであり、奨学金としての責任があることを自覚し、学びを深め将来への一歩を踏み出してください。

事務局から

2025 年度奨学金支給決定書交付会が開催されました

6 月 23 日(月)12時から、東京大手町の古河三水会会議室において開催され、昼食を含め約1時間半行われました。

5 月の選考委員会で確定した奨学生 54 名(新規 27 名、継続 27 名)のうち、17 名(うち外国人留学生 2 名)が授業等の合間を縫って出席、古河記念基金からは吉田政雄代表理事(古河電気工業㈱名誉顧問)、石山喬様(日本軽金属ホールディングス㈱元社長)、相馬信義様(古河機械金属㈱名誉顧問)、吉永辰彦業務執行理事の 4 名が出席されました。

吉田代表理事からの当基金設立の趣旨や経緯の紹介と激励のお言葉で始まり、奨学生の自己紹介の後、昼食・懇談と続きました。昼食後、吉田代表理事より出席者全員に一人ずつ、奨学金支給決定書が手渡されました。続いて、奨学生が、研究テーマや学生生活などについての 2 分間スピーチ、最後に、石山様、相馬様からご挨拶があり、奨学生に対する祝福と期待の言葉が送られ終了しました。全体を通し、奨学生同士の会話も弾み、和やかな会となりました。

2024 年度の寄付金について

2024 年度は、古河三水会、グループ会社の他、グループ会社の関係者(個人)の方々から、合計で 144 万円の寄付金を頂きました。

皆様のあたたかいご支援、本当にありがとうございます。

2025 年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度 寄付者一覧 (受領日順)

受領日	氏 名	受領日	氏 名
2024年4月～2025年3月	守 田 寛 様	2024年10月15日	吉 田 政 雄 様
2024年5月18日	橋 本 卓 様	2024年10月21日	沢 邦 彦 様
2024年5月21日	射 場 孝 様	2024年11月13日	池 田 健 一 様
2024年6月28日	吉 永 辰 彦 様	2024年11月13日	鶴 岡 尚 様
2024年7月30日	宮 川 尚 久 様	2024年11月14日	下 鳥 正 弘 様
2024年7月30日	中 戸 川 稔 様	2024年11月15日	小 野 貴 裕 様
2024年7月30日	荻 野 正 浩 様	2024年11月18日	鹿 島 田 耕 一 様
2024年7月30日	酒 井 宏 之 様	2024年11月21日	木 村 博 紀 様
2024年7月30日	名 塚 龍 己 様	2024年11月25日	石 島 健 一 郎 様
2024年7月30日	今 野 光 一 郎 様	2024年11月25日	石 原 廣 司 様
2024年7月30日	井 上 一 夫 様	2024年11月25日	柴 田 光 義 様
2024年7月30日	三 影 晃 様	2024年11月25日	小 林 敬 一 様
2024年7月30日	岩 間 和 義 様	2024年11月25日	森 平 英 也 様
2024年7月30日	山 川 健 司 様	2024年11月25日	柳 登 志 夫 様
2024年7月30日	栗 田 憲 一 様	2024年11月25日	國 枝 誠 司 様
2024年7月30日	玉 利 健 一 郎 様	2024年12月19日	高 桑 真 樹 様
2024年7月30日	今 井 伸 様	2025年2月27日	本 多 一 顯 様
2024年7月30日	田 近 強 様		

その他、匿名でご寄付いただいた方 12名

古河記念基金へのご支援のお願い

古河記念基金は、設立以来、延べ 3,400 人の経済的に困難な学生に奨学金を支給し、学業・研究の場を与えられるよう支援して参りました。

当基金は、税額控除制度が適用される法人として認定されておりますが、認定継続には、一定の寄付者数を確保・継続していく必要があります。

従来から古河グループの皆様には温かいご支援をいただいておりますが、これまで以上に、皆様の強く温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

◎寄付の申し込み方法

「寄付申込書」を以下のサイトからダウンロードいただき、事務局宛にお申し込みください。

「一般法人・公益法人等情報公開 共同サイト」

[http://www. disclo-koeki. org/08a/00991/index. html](http://www.disclo-koeki.org/08a/00991/index.html)



「寄付申込書」および「ご入金の確認」ができ次第、寄付金受領証明書(税務申告書類)等をご送付いたします。

公益財団法人 古河記念基金

東京都千代田区大手町 2-6-4

常盤橋タワー(古河三水会内)

電 話:03-6262-0804

FAX:03-6262-0806

メール:kinenkikin@furukawa-sansuikai.gr.jp